

視点(829)

I Saw All America (その112) !!

ポートランド物語 (ポートランドの都市としての概要)

アメリカで「最も住んでみたい都市」のベスト1位・2位に常にランキングされる都市に、ポートランドがあります。ポートランドは、アメリカの北西部大西洋沿岸のサンフランシスコ(カリフォルニア州)とシアトル(ワシントン州)の間に位置しています。人口562,690人(2006年)、都市圏人口2,137,562人(2006年)のオレゴン州最大の都市であり、また、人口増加が著しい都市でもあります。札幌市とほぼ同緯度であり、肥沃な農地を抱える周辺の農産物集散の港町として成長しました(同緯度にあることと、共に計画された美しい街並みを持っていることから、ポートランド市と札幌市は姉妹都市になっています)。戦時中は軍事産業が発展しましたが、今ではカリフォルニアのシリコンバレーに対抗して、ポートランドからシアトルに至る一帯はシリコンフォレストと呼ばれ、半導体、電子部品、情報・通信関連企業(特にインテル)の集積が進んでいます。また、至る所に森が点在し、自然と文化が調和する美しい都市としても知られています。

このような概要を持つポートランドですが、何故、「最も住んでみたい都市」のベスト1位・2位に常にランキングされるのでしょうか？私なりに分析してみました(六車流：流通理論)。

自然という地域固有の長所と融合した街づくりの都市

ポートランドは山と川の自然に恵まれ、この恵まれた自然を活かし、森を保存し、街中には公園が至る所に存在し、街路樹が整備され、自然と街が融合した都市を形成しています。ポートランドは緯度は高いが、西側の沿岸地域は温帯気候で秋から冬にかけて雨が多く(雪は少ない)農業に適した肥沃な土地で、一方、東側の内陸部は乾燥地帯で美しい自然が豊富にあります。

ニューアーバニズムの都市理論を導入した都市

ニューアーバニズムとは、都市の成長をバランス良く誘導し、都市をよりサステイナブルな構造に再編していこうとする都市づくりの考え方です。そのニューアーバニズムの概念に基づき、ポートランドでは、伝統的近隣地区で街路の整備や建築のデザイン規制等を行い、かつて街(コンパクトシティー)が持っていた機能性を現代の都市に活かした開発をしようとしています。また、公共交通志向の開発を行い、車社会で廃れた鉄道やバスなどの公共交通を再生・新設し、駅を中心とした歩きたくなる街をつくろうとしています。

ポートランドの伝統ある建物の再利用や、MAXやストリートカー(電車・フリーゾーンは無料)と呼ばれる2つのタイプの鉄道が存在し、さらに、バス網も充実しており車を持たなくても生活できる都市が形成されています。産業構造がアナログ型とデジタル型の調和の取れた都市

ポートランドは、肥沃な土地からの恵みである農産物(水産物も豊富)や、豊かな森からの木材といったアナログ型産業と、ハイテクのデジタル型産業が調和した産業構造が形成されています。また、観光資源も多く、観光産業も発展しています(年間670万人の観光・レジャー入込客)。さらに、ナイキやコロンビアのスポーツメーカー企業の地元でもあり、スポーツアパレルの産業も発達しています。このように、ポートランドは、アナログ型産業とハイテク型産業が両立し、豊かな労働需要を創出し、多様な働く場を提供しています。

エコロジー志向及び健康志向の強い都市

自然環境と調和した都市形成、公共交通機関の活用、オーガニック食材の栽培、また、スポーツのメッカであり、ナイキやコロンビアなどのスポーツメーカーの発祥エリアでもあります。このように、ポートランドはエコロジー志向と健康志向を求めて全米から転入が続き、人口の成長力も高い都市です。

文化と芸術志向の高い都市

大型かつ有名な文化施設や芸術施設(ハコ物)ではなく、個性あるアーティストによる独創的なアート商品がサタデー・マーケットで販売されています。ポートランドはアーティストの街であり、アーティストの芸術・文化を街づくりの基軸とした都市です。また、ポートランドの都市部にポートランド州立大学(2万人の学生)があり、学生とヤングの街でもあります。

以上のような要因と、ポートランドのユニークな都市計画により、「ポートランドスタイル」(ポートランドの独自固有の特性を活かしたライフスタイル)が形成されています。

(株)ダイナミックマーケティング社³
代表 六車秀之